



3 旭松岩上鶴図 川端玉章

対幅

明治期(十九世紀)

絹本着色

本紙各一三四・九×五〇・〇

対幅形式の本図は、右に旭日に松、左に波の打ち寄せる岩上に集う三羽の鶴を描いた吉祥画である。松は季節を問わず常緑であり、またその樹齡が長いことから、長寿の象徴として古来より盛んに吉祥図に取り入れられてきた。また、松、鶴、海はそろって中国の伝説上の霊山蓬莱山を想起させるモチーフでもある。

川端玉章(一八四二〜一九一九)は、円山派の中島来章に学び、後に岡倉天心に評価され東京美術学校教授となった。円山派の写生画法に洋画の空間表現や明暗表現を取り入れて、円山派を近代化した画家として位置づけられている。本図に描かれた鶴の姿態や、その背後でゆったりとゆるる波の描線は、まさしく応挙以降円山派の画家らの間で受け継がれてきたものである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections